

研究・調査報告書

報告書番号	担当
114	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol and multiple trauma: is there an influence on the outcome? アルコールと多重外傷：アウトカムに影響するか？	
執筆者	
Zeckey C, Dannecker S, Hildebrand F, Mommsen P, Scherer R, Probst C, Krettek C, Frink M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol. 2011 May;45(3):245-51.	
キーワード	
多発外傷、外傷後合併症、アルコール、MODS、集中治療室、サイトカイン	
要 旨	
<p>目的： 外傷患者のうちの一定数が、外傷センター受診時に酒に酔っている。外傷後の治療経過においてエタノールが大きく影響するという報告があるが、十分確立していない。多重外傷の集団におけるエタノールの影響はほとんど報告されていない。そこで、ドイツレベル 1 外傷センターにおける酒酔いの多重外傷患者における後ろ向きアウトカム研究を行った。</p> <p>方法： Injury Severity Score 16 点以上の 16-65 歳の患者を対象とした。換気時間、集中治療室滞在時間、サイトカイン経過、全身性炎症応答症候群(SIRS)の発現、敗血症、多発臓器障害症候群(MODS)について分析した。総入院期間、死亡、血液製剤使用について評価した。ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>結果： 両群で外傷は同等だったが、酒酔い群ではより重症な腹部外傷が見られた。治療経過は両群で同等だった。飲酒は、SIRS (オッズ比 1.00; 95%CI, 0.59-1.70)、敗血症 (オッズ比 0.84; 95%CI, 0.54-1.31)、死亡 (オッズ比 1.08; 95%CI, 0.53-2.13) の独立した危険因子ではなかった。酒酔い患者は MODS 発症リスクが高い傾向にあった (オッズ比 2.74; 95%CI, 0.90-8.35)。</p> <p>結論： 多重外傷患者において、受診時血中アルコールレベルは、アウトカムの良いマーカーにはならなかった。外傷重症度に関してアルコール関連事項の違いはなかったが、酒酔い患者では重症腹部外傷が見られる傾向にあった。酒酔いの多重外傷患者では、外傷後合併症のリスクが上昇することはなかった。</p>	